



白熱した代表委員会

昨日23日(火)に第三回代表委員会が行われました。「わくわく通信102・150号」で紹介したこともありますが、代表委員会は、4年生以上の学級の代表、各委員会の代表、運営委員会によって組織します。また、必要に応じて各クラブの代表やたてわり班の代表等の参加も考えられます。実は、昨日の代表委員会は、いつもと違う代表委員会となりました。「6年生を送る会をしよう」という議題で、6年生を送る会で6年生に感謝の思いを伝えるためのプロジェクトを話し合ったのです。



そのため、6年生は参加せず、全て5年生以下で話し合いました。「6年生にありがとう」の気持ちを伝えるためには、どんなことをすればいいのかわ、意見を比べ合っていました。(※内容はシークレットですので、6年生を送る会のときに詳細は明らかにします(^;))「〇〇の方が、6年生が帯西を思い出してくれると思う。」「△△は、味があっていい。『ありがとう』という思いを込めて作ることができる。」「□□は、『ありがとう』の思いが伝わる上に、たてわり班の思い出も残すことができる。」など、白熱した議論で、時間が足りないくらいでした。

全校のみんなが、憧れの6年生のために話し合い、合意形成したことを実行することで、「学校生活がより『わくわく』することに繋がった」といった、自分たちで成し遂げた手応えを積み重ねていきます。このように、子供たちの活躍と子供から子供への伝承によって、学校文化は創られていくのです。

●ひこうきぐも✈ vol.14

アメリカから日本に帰って来ると、日本で朝も夜もアルバイトをしました。日本でしばらくの間、まじめに働き、お金が少し貯まると、次はどこに行こうかと考える日が続きました。そして、ヨーロッパに白羽の矢を立てるとすぐに、ヨーロッパ行きの格安航空券を購入し、旅立ちました。

ヨーロッパ内の移動方法の一つとして、私が最も便利だと感じたのは、鉄道を利用することです。鉄道旅行での移動には時間がかかるのでは!?!と初めは心配するかもしれませんが、西ヨーロッパの名の知れた都市ならば、どこからでもパリまで24時間もあれば行けます。私の場合は、貧乏旅行だったので、夜行列車に乗り、時間とホテル代の節約という理由から鉄道旅行を選んだのですが...

鉄道旅行にしてよかったと思ったことは、様々な人々との出会いや、美しいヨーロッパの風景を車窓から満喫できたことです。近くに座った人とは、片言の英語やジェスチャーで時間を気にすることなく、コミュニケーションをとることができます。また、映画のワンシーンに出てきそうな風景は、観るものを退屈させません。パリからベルギーへ向かう車窓からは次第に田園風景が広がり、鉛色の空の下に広がる、豊かな大地のコントラストが見事でした。また、ブリュッセルからアムステルダムへ向かう車窓からは、青い草原がどこまでも続き、草原の中にはたくさんの馬や羊たちが点在し、おいしそうに草を食べていました。

私は鉄道旅行の前に、ユーレイルパスという切符を買いました。これは26歳未満の若者が買うことができ、ヨーロッパ17カ国の鉄道を自由に乗り降りできるという、優れものなのです。この切符とヨーロッパの鉄道を全て網羅したトーマスクック時刻表を手にし、ヨーロッパ鉄道旅行が始まりました。(※「わくわく通信91号」でヨーロッパ最初の地「イギリス」の旅の様子を紹介しています)

※「ひこうきぐも」は、あくまでも荒木が旅をした当時、約30年前の街の様子です。現在とは状況に違いがあることをご了承ください。